

令和7年度 南砺市総合計画推進委員会
議 事 概 要

開催日時：令和7年9月24日（水） 9時00分～10時45分

開催場所：南砺市役所別館3階大ホール

出席委員：10名 大西委員長、打出副委員長、武田委員（代理：神能氏）、湯口委員、
村澤委員、三都井委員、松本委員、山崎委員、谷口委員、遠藤委員

推進本部：10名 市長、副市長、教育長、総合政策部長、総務部長、市民協働部長、ブラン
ド戦略部次長、ふるさと整備部長、教育部長、地域包括医療ケア部長

傍聴人：0人

次 第

1. 開会
2. 委嘱状の交付
3. 市長あいさつ
4. 委員の紹介
5. 委員長及び副委員長の互選
6. 議事
 - ・総合計画 令和6年度実績の検証結果について（資料1）
7. 意見交換
8. 閉会

議事要旨

○：委員からの意見・質問 ●：推進本部の意見・回答

（6 協議事項について資料に基づき事務局より説明）

【未来に希望が持てるまち】について

- 実際に砺波市で小中学生の子育てをしている。南砺市の入学支援金や木育遊具について、市民は知っているのか。砺波市や他の地域で実施していない事業ではないか。砺波市民としては惹かれる取組である。市民は当たり前とっていて、他市と比較したときに、恵まれていると感じるのではないか。市独自の取組を身近なSNSを通じて発信し、市民へ十分に情報を伝えたらいいのではないか。
- 総合評価Cということであった。施策をやるとき、コストに見合った成果であったかを費用対効果として、市としてどのように受け止めているのかコストをさらにかければいいのか、このままのコストでやっていくという判断なのか。
- 経費、成果の比較をしている。人口対策ということで、かけた経費と目標に直接的な因果関係があるかどうかの判断は難しい。前期5年間の結果も元に、比較していきたいと考えている。令和7年度では、もう少し予算をかける必要がある事業については、人口対策事業として5億円の特別枠を作り、予算をかけてやっていきたいと考えている。

- 結婚出会いの場について、行政で婚活事業をされているがターゲットは、35歳以下が中心になるのか。南砺市も晩婚化、未婚化が目に見えている。同年代でもたくさんおり、事業の対象年齢から外れる人がとても多い。35歳を超えると出会いの場は少なくなるので、若者を継続しつつ、現実として、結婚していない35歳以上も対象としてほしい。35歳を超えてからの出生も増えており、出会いやパートナーを見つける場の創出から南砺に住もうという可能性が増えていくのではないかと思います。
- 昨年度は35歳までを中心にイベント形式にすることで、まずは自然な形で出会いの創出を行っている。35歳以上については、具体的に意識している方も多いため、マッチングができれば内容で実施しており、年齢別に取り組を行っている。
- 小規模多機能自治をスタートしたときに中間支援組織が必要となり、なんと幸せ未来基金を立ち上げた。自らお金を集める組織を作ったのに、実績が少ない。上手く機能していないし、資金もなく、人材もないため、募金集めや企業に依頼するスタッフもない。組織を作った以上は、支えるようなシステムが必要である。これは、すべてに繋がると思うので、危機感をもって今後のあり方について議論していることを伝えたい。
- 娘が結婚し、砺波市に住んでいたが、やはり南砺市に住みたいと、1人目の出産後に南砺市に戻り、私は娘夫婦と住んでいる。戻って来てくれた要因の一つに、子どもを育てる環境が整っていることがある。そのことが人口増や子どもが増えることに繋がるといい。本日の資料を娘とも見て、南砺市はいいね、という話した。いただいた補助金は、全てオムツ代に消えるありがたい。
- 児童館について、地域や地域づくり協議会を仕事で訪問した際に、五箇山地域のみなさんが放課後に子どもたちを見ることに不安を感じていた。担当課の人に伝えてほしいと言われ、こども課はすぐに対応していただき、ありがたいと感じた。社会福祉協議会で地域の声を受け取ったときに、各部署で対応できるよう検討していただけるとありがたい。
- 前半の充実した施策があるのご意見いただき、ありがとうございます。これからも頑張っ
て取り組んでいきたいと思います。また、あそび場についてですが、今年度、子どものあ
そび場の整備方針を作成しており、また、9月議会では貸出遊具の費用への補助が認めら
れました。今後、地域の要望を聞いて、さらに前向きな事ができないかと考えております。
- 未来に希望が持てることについて、住んでいる者がどうかというところで、今から南砺市
に住んで子育てするかどうかと考えた際に、学校のあり方検討を見ている方や、南砺はお
金が充実しているという選び方をする方もいる。ある程度、ペルソナ設定をして、対象と
している世帯に今の政策が反映されているのか考える必要がある。また、全体評価がC・
Dだが目標値が高すぎることとか。やっている事業は前向きな評価もあるので、評価さ
れる側としたら赤点ということで、モチベーションに繋がるのか気になる。中学生を対象
とした指標にしても、中学生は3年で全部入れ替わり、対象者が変わってしまうがどう考
えているか。
- 評価の方法について、各事業であまり達成度がよくない事業があると全体評価も厳しく
なる評価をしており、いい事業もあれば、悪い事業もあるのでそういった全体評価になる。
児童生徒を対象とした指標は、全国学力学習調査から持ってきている指標である。毎年の
小6、中3を対象に実施しており、対象者は変わっていくことになる。学年によっている

い雰囲気などあると思うが、南砺市の取り組む結果の指標として、継続して使用しているところである。

【多様な幸せを実感できるまち】について

○通所型サービスB型が10箇所くらいしか取り組んでいない。元気な80代の方が増えている時代背景があり、運営していても参加人数が増えず、儲からないので赤字になるような制度設計であるから、南砺市に増えていかない。B型をあきらめて週1サロンといっても、地域づくり協議会に行政が各地域でやってほしいとお願いしているかといったらやっていない。

また、南砺市はジェンダーギャップについて、やろうと言い出したばかりである。まだ、さあ、やるぞという段階にきたところである。通所型サービスB型は有償サービスでやっており、当初は思い切って金を払ってくれているという感覚だったが、毎年最低賃金上がることも含め、実施地域は増えていない。通所サービスB型、週一サロンを広げるかということについて、福祉部会で議論がひろがるように、攻めの姿勢で働きかけてほしい。

●B型事業については、年1・2回打合せをしている。最低賃金の話も出ており、担当課でも理解している。きちんと制度設計をすべきと思っているので、地域づくり協議会にお願いすればいいのか、可能性がある団体に頼めばいいのか、待ちではなく、積極的に展開していきたいと考えている。ジェンダーギャップについては、まだまだと認識している。市民一人ひとりの意識をすぐにかえるというのは難しいが一步步、着実に進めていきたいと思っている。

○外国人の多文化共生の観点での意見となります。人手不足解消として、技能実習の外国人や若手の外国人を採用しており1000人を超えていると思う。先日、インドネシア人の方が城端の役所にいったとき、自国の文字の紙を渡していただき分かりやすかったと言っており、色々な言語の対応され、丁寧にやっていると感じた。介護人材に対して、市事業によるサポートで強化しているという認識。観光のまちづくり人手不足については、技能実習ではなく高度な外国人の採用についても検討すべき。英語に対応できる事業者が少ないなど、インバウンドで人が来ても対応できる人材が南砺市にいないので、高度な外国人採用について目を向けるべき。また、民間事業者が外国人を採用すると複雑な手続きがあり、対応が非常に大変なため、行政の支援があるといい。

○国は技能実習制度をやめて、新たに制度をつくっている。今は実施計画のための調整期間である。実際に入国するのはもう少し後になり、育成就労という名前に変え、技能実習生は3年～5年で帰国であったが、どんどん日本でお金をかせぐために来てくださいという制度になっている。5年たったら家族の呼び寄せを認めるとなっており、外国人の家族が来るということは、日本語をしゃべれない子どもたちがやってくる時代が5年後にやってくる。10年たったら、永住許可を与える法律に変わる。そのためには、選ばれる富山県、南砺市にならないといけないので、いろんな施策を考えないと、ますますの中小企業の人手不足に対応できない。そのような認識をもち、外国人に来てもらうという覚悟が市役所に必要であり、そのような施策をつくる調査研究を今から始めた方がいい。

- 高度化の人材ということで、そのような問題は出てきていることを把握はしているが、ニーズ把握はこれからである。観光協会も含めどういったことができるのか検討していく。外国人の手続きの問題についても把握しており、行政としてどのような支援ができるか情報収集に努めたい。
- ジェンダーギャップ、女性の講座にたくさん参加されている。女性が社会に参加するためには、受け入れ先の理解が必要だが、受け入れ先について何か対応されているのか。
- 令和2年からジェンダーギャップの解消について、働く場所も含め、情報交換をしてきた。リクルートについては、企業の問題もあったので、トイレや食事スペースなどの環境改善に支援をしている。企業が女性を受け入れるというプラスになるような事業ということで、自分たちの企業のためなので動きは早かった。地域は始まったばかりで、これからの地域をどうするかが課題である。国も、新しい共生社会をつくるうえで、勉強会を始めている。
- 学生健診事業というのがある。R5は100%だったのに、R6は58%に減っている。意見徴収して改善となっているが、未受診理由を教えてほしい。だれが対象か、また、保護者が理解出来ていないということであれば、保護者に周知していただきたい。
- 学生健診は保護者と一っしょに来る日程になっており、保護者の都合が悪いと受診できない。夏休み期間だけであったが期間を伸ばすなど検討している。健康課としてすべき事業なのか、教育委員会で持つべき事業かも検討している。対象は中学3年生であり、保護者に重要性をわかっていただきたく、周知していく。
- 外国人に関する法改正で育成就労になる。働くことを教える、就労を育成する、言葉のあやである。共生社会は、住んだら仲よくしようというものであるが、各市町村に求められているのは、外国人が入ってきたときに、制約がいろいろとあるので、日本語を教える教官なり、学校なりが必要といっている。南砺市には、「やさしい日本語教室」があるが、そこだけを頼っていてはいけない。教育システムを確立し、中小企業自身が入ってきた外国人の人材を育てる努力は難しく、N4、N3というステップがあるので、市町村として支える準備をすぐに始めるべきである。福寿会が介護人材を入れることになっており、入れた以上は国家資格の介護福祉士の資格を3年目までに取らなければならない。入国した人が介護福祉士の資格を取れるように対応していったほしい。南砺市としてシステムを作っていただきたい。
- 日本語の教育、資格支援については、南砺市にはすでにあるので、活用をしていただきたい。
- ジェンダーギャップ解消講座に参加した経験から新たなコミュニティができている。始まったばかりという声があったが、女性ならではの悩みの共有や学びがあり、新しい事業をやってみようなど、動きがあるので、ありがたい機会をいただいたと感じている。継続していただきたい。

【心豊かな暮らしができるまち】について

- 若者の南砺市での就労促進のための助成金の事業の達成率がaなど高い。達成度が高いのに就職者数が少ないことについて思うのは、面接に行けば魅力的な企業とわかるが、行

かないとわからないといこと。若者に対して、いろいろな助成金で働きやすい環境になっている企業があることをもっとアピールできる場があるといいのではないかと思います。

- 企業と協力し、企業訪問を具体的な体制で取り組めないかと検討している。

【皆で考えともに行動するまち】について

○ふるさと教育について、昨年度の教育フェスティバルで各小中学校、義務教育学校、一斉に集まって、発表の機会があった。良かった点として、児童生徒が他の学校の発表に対して質疑や意見をするという場がすごく良いと思った。今年度は、代表校という話もありましたが、そこに限らず、他の学校の児童生徒とうまくそういうコミュニケーションをとることも大事。学校の先生や生徒数の減少、地元を知らない先生が増えている現状があるので、コミュニティスクールなど、地域の人との連携したふるさと教育をお願いしたい。

- 教育フェスティバルは、好評をいただいております、継続してやっていきたいと思う。ふるさと教育は、地域の力を借りてやっていくことが大切。先生のみならず地域の方を巻き込んで、今後もふるさと教育を進めていきたいと考えている。

【閉会】

- 本日いただきましたご意見は、庁内で共有・検討のうえ、今年度下半期の取り組みや来年度にむけた予算案の編成過程において、活用していく予定です。ありがとうございました。
(閉会)